

2011年度

科目名	コミュニケーション演習A				
担当教員	小山 豊				
配当	薬科1(44114412)		コード	32073	
開期	後期	講時	水曜日2限	単位数	1
授業テーマ	【必修】 信頼関係の確立のためのコミュニケーション				
目的と概要	コミュニケーションは、薬剤師の重要なスキルのひとつであります。患者あるいは医療チーム内での意思疎通のためにも低学年よりその重要性を理解せねばなりません。コミュニケーション演習Aでは、医療の担い手の一員である薬学専門家として患者、同僚、地域社会との信頼関係を確立できるようになるために、相手の心理、立場、環境(PBL)取り入れ、担当教員の提示する課題に対して、各自の情報収集と小グループ討論を繰り返して行い、その過程でコミュニケーション能力や問題解決能力を養うようにカリキュラムが組まれています。 (日本薬学会モデルコアカリキュラム A(3)「信頼関係の確立を目指して」に対応)				
成績評価法	学期末のレポート(40点)および授業中の態度(60点)の計100点満点で評価します。				
テキスト	必要なテキストは、授業開講時に配付します。				
参考書	スタンダード薬学シリーズ1「ヒューマンズム・薬学入門」/日本薬学会 編/東京化学同人 薬局におけるコミュニケーション能力の開発と実践/平井みどり、楠元 喬 監修/じほう社				
履修に当たっての注意・助言/準備学習	問題立脚型学習(PBL)で与えられた課題・問題を解決するためには、多くの情報を収集しておく必要があります。そのため小グループ討論を行う前には、必ず各自がテーマに関連する事柄をよく調べ、臨むようにして下さい。				
講義計画					
回数	授業形態	授業内容	到達目標 (SBO)	コア対応番号	学習領域
1	講義	イントロダクション ー コミュニケーション論、本演習の進め方について	1. 薬剤師業務におけるコミュニケーションの必要性を知る。	A(3)	知識
			2. 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。	A(3)	知識
			3. 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。	A(3)	知識
			4. 立場、文化、習慣などによって生じるコミュニケーションの差異を例示できる。	A(3)	知識
2	少グループ討論 (SGD)	セッション1: コンセンサスゲーム (簡単なコミュニケーションゲームの提示と小グループ内での討論)	1. 課題に対する自分の意見を決められた時間内で発表できる。	F(8)	技能
			2. 質問に対して的確な応答ができる。	F(8)	技能
3	少グループ討論 (SGD)	セッション1: コンセンサスゲーム (小グループ内での討論)	1. 課題に対する自分の意見を決められた時間内で発表できる。	F(8)	技能
			2. 質問に対して的確な応答ができる。	F(8)	技能
4	全体討論	セッション1: コンセンサスゲーム (討論結果の発表と全体での討議)	1. グループディスカッションで得られた意見を、統合して発表できる。	F(8)	技能
			2. 自分達のグループと他のグループの結果を比較して討議する。		
	自己評価	自己評価アンケートの記載	3. 本学習で修得できたコミュニケーション能力を、自らで評価する。	独自	態度
			4. 本演習を受講したことで見出された、自らのコミュニケーションの長所・短所を認識する。	独自	態度

5	講義	セッション2:薬物乱用問題を考える(背景の概説とセッション課題の提示)	1.麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。	B(1)	知識		
6	少グループ討論(SGD)	セッション2:薬物乱用問題を考える(小グループ内での討論)	1.課題に対する自分の意見を決められた時間内で発表できる。	F(8)	技能		
			2.質問に対して的確な応答ができる。	F(8)	技能		
			3.薬物乱用の防止における薬剤師の重要性を認識する。	独自	知識・態度		
7	少グループ討論(SGD)	セッション2:薬物乱用問題を考える(小グループ内での討論)	1.課題に対する自分の意見を決められた時間内で発表できる。	F(8)	技能		
			2.質問に対して的確な応答ができる。	F(8)	技能		
			3.薬物乱用の防止における薬剤師の重要性を認識する。	独自	知識・態度		
8	少グループ討論(SGD)	セッション2:薬物乱用問題を考える(小グループ内での討論)	1.課題に対する自分の意見を決められた時間内で発表できる。	F(8)	技能		
			2.質問に対して的確な応答ができる。	F(8)	技能		
			3.薬物乱用の防止における薬剤師の重要性を認識する。		知識・態度		
9	全体討論	セッション2:薬物乱用問題を考える(討論結果の発表と全体での討議)	1.グループディスカッションで得られた意見を、統合して発表できる。	F(8)	技能		
	自己評価	自己評価アンケートの記載					
		2.自分達のグループと他のグループの結果を比較して討議する。				独自	技能
		3.本学習で修得できたコミュニケーション能力を、自らで評価する。				独自	態度
10	講義	「傾聴」と「アサーティブネススキル	1.対人関係に影響をおよぼす心理的要因を概説できる。	A(3)	知識		
			2.相手の心理状況とその変化に配慮し、適切に対応するためのスキルについて説明できる。	A(3)	知識		
			3.相手の話を傾聴することの重要性を説明できる。	独自	知識		
			4.アサーティブな態度とは、いかなるものであるかを説明できる。	独自	知識		
11	講義	セッション3:「安楽死」をテーマに生命の尊厳を考える(背景の概説とセッション課題の提示)	1.死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。	A(1)	知識		
			2.「ヘルシンキ宣言」、「インフォームド・コンセント」、「患者の基本的権利」と「自己決定権」について説明できる。	独自	知識		
12	少グループ討論(SGD)	セッション3:「安楽死」をテーマに生命の尊厳を考える(小グループ内での討論)	1.課題に対する自分の意見を決められた時間内で発表できる。	F(8)	技能		
			2.質問に対して的確な応答ができる。	F(8)	技能		
			3.自らの体験を通じて、生命の尊厳と医療の関わりについて討議する。	A(1)	態度		
13	少グループ討論(SGD)	セッション3:「安楽死」をテーマに生命の尊厳を考える(小グループ内での討論)	1.課題に対する自分の意見を決められた時間内で発表できる。	F(8)	技能		
			2.質問に対して的確な応答ができる。	F(8)	技能		
			3.自らの体験を通じて、生命の尊厳と医療の関わりについて討議する。	A(1)	態度		

14	少グループ討論 (SGD)	セッション3:「安楽死」をテーマに生命の尊厳を考える (小グループ内での討論)	1.課題に対する自分の意見を決められた時間内で発表できる。	F(8)	技能
			2.質問に対して的確な応答ができる。	F(8)	技能
			3.自らの体験を通じて、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。	A(1)	態度
15	全体討論 自己評価	セッション3:「安楽死」をテーマに生命の尊厳を考える (討論結果の発表と全体での討議) 自己評価アンケートの記載	1.グループディスカッションで得られた意見を、統合して発表できる。	F(8)	技能
			2.自分達のグループと他のグループの結果を比較して討議する。	独自	態度
			3.本学習で修得できたコミュニケーション能力を、自らで評価する。	独自	態度
			4.本演習を受講したことで見出された、自らのコミュニケーションの長所・短所を認識する。	独自	態度
授業方法					
一般目標	学習方法	場所	教員数 (補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
A(3)・A(1)(知識)	講義	講義室	1(1)	配布資料(プリント)	90分 x 3
A(1)(態度)・F(8)	SGD	セミナー室	1(1)	配布資料(プリント)	90分 x 8
B(1)	講義	講義室	1(1)	配布資料(プリント)	90分 x 1
F(8)・独自SBO	全体討議・自己評価	講義室	1(1)	配布資料(SGDプロダクト)・自己評価チェックシート	(プロダクト発表および全体討議70分 + 自己評価20分) x 3